

感謝

堂迫 エドワード 日出徳

私は今、薬物依存症からの回復のため、びわこダルクに入寮し、回復のためのプログラムを日々行って生活しています。

そのプログラムの基礎となっているナルコティクスアノニマスの「回復への12のステップ」というものがあります。

これは、12あるステップを理解し日々の生活の中で実践していくというものです。

その1番目に、「私たちはアディクションに対して無力であり、生きていくことがどうにもならなくなったことを認めた」とあります。

アディクションとは、嗜癖や、自分の意思でコントロールできない状態、と訳されるようです。私にとってアディクションとは、薬物使用であるという認識があり、実際私は薬物使用をコントロールできていませんでした。

その事(薬物使用に対して無力)は自分の中でしっくりきていたのですが、「生きていくことがどうにもならなくなったことを認めた」というのがピンときていませんでした。

「薬物使用には無力ではあるが、生きるのことに無力とはなんだろう。自分はちがう気がする」そんな風に思っていました。

しかし、ある人に、「あなたにとって、どうにもならなくなったとは、どんな状態ですか？」と聞かれ、私は「無力な状態、コントロールできない状態」と答えました。

「では、あなたが人生で無力でなかったこと、自分一人の力で全てを成し得たこと、コントロールできたことはありますか？ それは、何ですか？」と聞かれて、考えました。

そして思い至りました。

私の人生の中で自分一人の力で成し得たこと、コントロールできていたことは何一つないと。

何かをしたい、何かになりたい、そう思い、その為に必要な努力をして、全てではないが満足する結果を得られたと感じることはありました。

しかし、それは、たまたまそうなたただけで、自分の努力したこと、力だけでそうなたのでは決してない、そう思いました。